

# 稲作情報 No.8

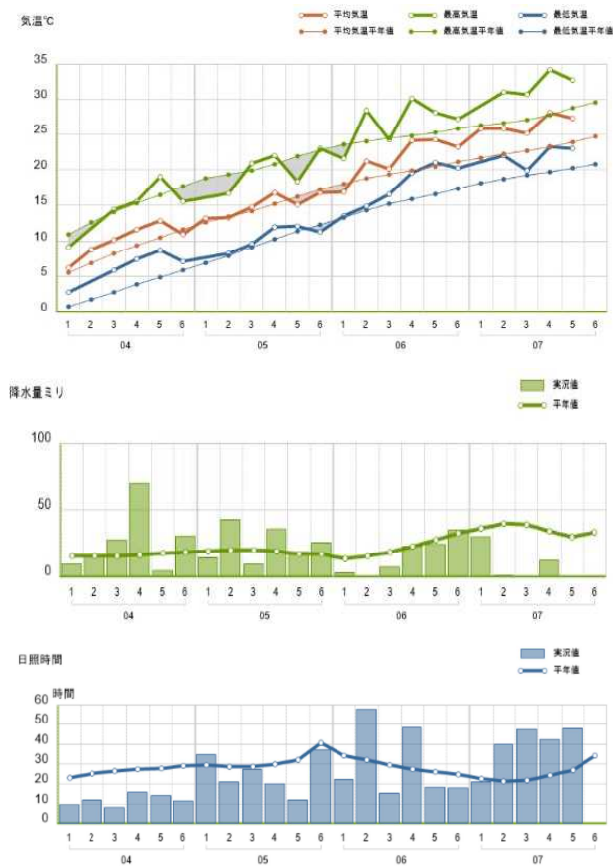
発行日: 令和7年7月29日  
発行: 仙北地域振興局農林部農業振興普及課

～出穂期早まる。高温障害対策を徹底！～

## 1 気象経過と今後の気象予報

### これまでの気象経過(アメダス大曲)

図1 半月ごとの気象経過(秋田県農業気象システムより引用)



### 向こう1か月の気象予報(7/26～8/25)

- ・仙台管区気象台より令和7年7月24日に発表された1か月予報によると、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- ・東北日本海側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。平均気温は高い確率が80%で、週別の気温は1週目(7/26～8/1)及び2週目(8/2～8/8)はいずれも高い確率が80%、3～4週目(8/9～8/22)は高い確率が60%です。
- ・降水量は東北日本海側で、ほぼ平年並の予報です。

図2 東北地方 1か月予報(出典: 気象庁HP)

| 気温、降水量、日照時間の各確率 (%) |        |                       |          |
|---------------------|--------|-----------------------|----------|
| 気温                  | 東北地方   | 向こう1か月<br>07/26～08/25 | 10 10 80 |
|                     |        | 1週目<br>07/26～08/01    | 10 10 80 |
|                     |        | 2週目<br>08/02～08/08    | 10 10 80 |
|                     |        | 3～4週目<br>08/09～08/22  | 10 30 60 |
| 降水量                 | 東北日本海側 | 向こう1か月<br>07/26～08/25 | 30 40 30 |
|                     | 東北太平洋側 | 向こう1か月<br>07/26～08/25 | 40 30 30 |
| 日照時間                | 東北地方   | 向こう1か月<br>07/26～08/25 | 20 40 40 |

## 2 生育概況(7月25日水稻定点調査結果より)

7月25日の定点調査結果(あきたこまち、10地点平均)は、草丈は86.7cmで平年より長く(平年比116%)、茎数は436本/㎡(平年比91%)で少なく、葉数は12.8葉(平年差+0.5葉)で平年よりやや多くなりました。葉色(SPAD値)は37.5(平年差-1.9)とやや低くなっています。

7月以降高温で経過した影響で出穂が早まっており、すでに走り穂や出穂始期となっているほ場も確認されます。

今後も高温傾向が続く予報であることから、高温障害の対策を徹底し、品質低下を回避しましょう。

### 3 当面の技術対策

#### 1. 今後の水管理

##### (1) 出穂期以降の高温対策を徹底しましょう。

- ・ 出穂後10日間は湛水管理(水深5～6cm程度)とし、その後は間断かん水を基本とします。今後も高温が予想されていることから、根の機能減退を防止するため、水の入れ替えにより地温の低下を図ります。また、本年は少雨傾向であることから用水不足が懸念されます。節水に努め、地域内で調整しながら限られた水資源を有効に活用してください。
- ・ フェーン現象等で乾燥した風の強い日は、湛水管理を行い、蒸散による水分の消耗を軽減します。
- ・ 早期に落水すると葉色の低下、枯れ上がり、根の機能減退につながるため、落水時期は出穂後30日以降とします。

##### < 水不足で用水の確保が難しい場合の水管理 >

- 溝切り跡への通水等により、土壌水分を補充し、夜間の地温低下を図る。ただし、穂揃期の前後は稲の吸水量が大きいので、かん水不足で稲が萎れないよう注意する。
- 用水が地域全体に行き渡るよう、こまめな水回りを行い、ほ場全体に水が行き渡ったら速やかに水口を止める。また、漏水がないよう畦畔の補修に努める。
- 地域農家や関係機関と協力して節水管理に努め、入水時間を申し合わせるなど、計画的な用水の供給に努める。

##### (2) カドミウム汚染米対策を徹底しましょう。

カドミウム汚染米の発生が懸念される地域において、「あきたこまちR」以外の品種を作付けする場合は出穂前後各3週間は常時湛水管理とし、カドミウムの吸収を抑制してください。

#### 2. 穂いもち防除について

BLASTAM(アメダス:大曲)の判定によると、7月以降は葉いもちの感染好適条件は観測されていません。しかし、葉いもちの発生が確認されているほ場やその周辺ほ場では、穂いもちの発生に注意が必要です。また、**本年は出穂期が早まることから、防除は時機を逸しないよう**にしてください。

葉いもちの発生が認められるほ場で、穂いもち防除を実施していない場合は、出穂直前にトライフロアブルまたはビーム剤と穂揃期にトライフロアブルまたはラブサイド剤で茎葉散布を行います。葉いもちが多発しているほ場では、必要に応じて、傾穂期にもラブサイド剤による追加防除を行います。いずれの薬剤も本田での使用回数に注意してください。

#### 3. 斑点米カメムシ類対策を徹底

7月18日に秋田県病害虫防除所から、斑点米カメムシ類に関する対策情報が発表されました。**イネ科雑草が出穂している畦畔で斑点米カメムシ類の発生が多い**ことから、畦畔などに出穂しているイネ科雑草がある場合は、斑点米カメムシの密度が高まることが懸念されます。

今後の予察情報に留意しながら、適期の薬剤防除を徹底しましょう。

### 【防除対策について】

- (1) 本年は稲の生育が早まっていることから、出穂期(ほ場全体の40～50%が出穂した日)を正確に把握し、適期防除に努める。
- (2) 1回目の薬剤防除は、出穂期10日後頃にアルバリン剤又はスタークル剤を、畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布する。
- (3) 上記の散布当日から7日後までに畦畔や農道の草刈りを必ず行い、斑点米カメムシ類の増殖源となるイネ科雑草を除去する。
- (4) 水田内に出穂したノビエやホタルイ等が発生しているほ場やイネ科植物が主体の牧草地や休耕田等に隣接しているほ場では、出穂期10日後頃に加えて同24日後頃にもエクシード剤またはキラップ剤を茎葉散布する。

## 4. 今後も猛暑続く！熱中症対策を徹底しましょう。

8月以降も暑い日が続く予報です。雨や曇りの日であっても、湿度の高い時は熱中症に注意が必要です。こまめな水分・塩分補給を心掛けましょう。

- ・農作業の際は単独作業は避けて、できるだけ複数名で作業を行いましょう。
- ・時間を決めて連絡をとったり、休憩を取るなどしてお互いの体調を確認しましょう。
- ・熱中症が疑われる場合は、速やかに作業を中断し、涼しい場所に避難するなどの応急処置をとってください。症状が改善しない場合は、医療機関を受診しましょう。

## 5. 農薬の飛散、危害防止に注意しましょう。

- ① 農薬を散布する場合は、周辺の住宅地や農作物に配慮し、事前に近隣住民等に知らせるようにしましょう。
- ② 農薬は、風がないまたは弱い時に散布しましょう。散布中に風が強くなった場合は、直ちに散布を中止しましょう。
- ③ 散布位置や散布の方向に、他の農作物等が無いことを確認し、散布の際は適正なノズルと圧力で行いましょう。
- ④ 養蜂が行われている地区で殺虫剤を散布する際は、養蜂業者等と連携をとり、できるだけ早朝や夕方に散布するなど、ミツバチへの危害防止を徹底しましょう。
- ⑤ その日のうちに農薬散布の内容を記録しましょう。

～秋田米栽培情報発信LINE始めました！～

水稻栽培に関する情報を発信しています。

秋田県農林水産部水田総合利用課

<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/suiden>



友達追加は  
こちらから